



令和7年度 第1号

— 1・2・3年 国ビ科生徒 企業・団体 配布用 — 文責：小嶋 睦仁

4月18日（金）に、国際ビジネス科3年生37名を対象とした「クルーズ船 見学会」を実施いたしました。この見学会では、釧路に寄港する大型客船に対し「おもてなし」を行うことで国際交流の一部を体験し、今後の教育に役立てるとともに、コミュニケーション能力の育成を目的としています。

今回は大型客船「ダイヤモンド・プリンセス」（11万5906トン）が釧路港西港区第4埠頭に入港し、乗客2714名に折り鶴のプレゼントや交流を行いました。生徒は乗客に対し積極的に声掛けを行い、外国人との交流の時間を楽しんでおりました。また、今回の活動で課題も見つけることができた様子で、次の活動では改善していきたいという意気込みも感じることができ、とても貴重な機会となりました。

<生徒の感想>

初めてクルーズ船を見ました。とても大きく、乗客もたくさん船上から眺めていました。外国人がバスから降りてきた際には、鶴の折り紙・アイヌ文様のファイルを渡しました。最初は折り鶴を欲しがるとおらず、500羽もいらないうちでなくなってしまったので、羽ばたくところを見せてあげたらみんな喜んで受け取っていて、自分からくださいと言ってくれる人もたくさんいました。500羽もあっという間になくなり、その場で数を増やしたり、けん玉をやってみせたりと、全員で頑張っていてすごく良かったなと思いました。次は1000羽くらい作って持って行きたいです。

一番驚いたのは、私たちのことを一切知らない方が一緒に写真を撮りたいと言って声を掛けてくれたことです。最初は緊張しましたが、段々と慣れていき、仲良く肩を組んで写真を撮れたことがとても楽しかったです。実際に英語を聞くと言葉が分からず、戸惑いながらも頑張って英語を聞き取り理解しようとしていましたが、どうしても分からず気まずい雰囲気になってしまうこともありました。ですが、その中でも分かったことは、みんな個性豊かでひとりひとりが素敵だな！ということです。私も言語の勉強をして、たくさん色々な国へ行き、冒険してみたいなと思いました。（R・M）



最後の国ビ科としてクルーズ船のおもてなしの授業をさせていただいて、人生であまり無いであろう機会を味わっていることを強く感じました。海外の人と接してみて、自分の勉強不足を強く感じました。けれど、身振り手振りだけでも他国の方とコミュニケーションを取ることができ、世界の可能性を感じました。悔しい思いもしましたが、それと同時に他国の人とコミュニケーションを取ることの楽しさを知ることができました。自分のレベルアップをこれからも図っていきたいと思いました。（M・N）

私たちは4月18日にクルーズ船を見に行きました。行く前は英語が喋ることができなくて、あまり通じないかもと思って心配していたけれど、行ってみたら観光客の方々がフレンドリーで優しく、楽しくおもてなしをすることができました。みんなで事前に折って持って行った折り紙の鶴は、みんな喜んで受け取ってくれてとても嬉しかったです。鶴は途中で足りなくなってしまう、凄

なと思いました。外国人の方に鶴の折り方を教えて欲しいと言われたので、直接教えてあげました。あまり英語ができなくてうまく伝えられなかったけど、最終的には完成したので良かったです。外国人に折り紙の折り方を教えるということはなかなかできないと思うので、貴重な体験ができて良かったです。英語はあまりできなくても伝えたいという気持ちがあれば何とか伝わると思いました。喜んでくれた方が多くて、こちらも笑顔になりました。私たちもとても嬉しかったです。とても楽しくて貴重な体験だったので、また行きたいなと思いました。(K・T)



まず、とても楽しかった。色々な国から色々な人が来ていて、やっぱり日本人にはないノリやテンションがあり面白かった。他にも、外国の高校には制服がないというのも相手の反応でわかり、それも一つの学びになったと思う。喜んでもらえてとても嬉しく、こっちも嬉しくなった。今回の実習で分かったことは、やはりまだまだ語学力が足りないということ。いざ話してみると何を言っているのかもわからないし、どう伝えたら良いかわからなくなってしまった。次もまたあるらしいので、それまでには今回よりも上手く話したい。しかし、伝えたいことはジェスチャーや、単語一つ一つで伝えることはできていたと思う。そこは自分でもとても良かったと思う。自分から話しかけても相手は良い笑顔で挨拶をしてくれて嬉しかった。

率先して自分から色々な人に話しかけることができ、話しかける時は常に笑顔で、大きな声で話しかけることを意識した。今回は割と聞き取ることはできたが、自分の言いたいことを言語化することが難しかった。例えば、どこの人と聞かれてもどう答えたら良いかわからない時もあった。もし次があるなら、もっと自分から話しかけ、今回より語学力を高めて、もう少し喋れるようにしたい。(H・S)

今回、クラスみんなで折った鶴500羽を海外の方に渡しました。海外の方はたくさん喜んでくれたり、「一緒に写真を撮りましょう」と声をかけてくれたり私はとても嬉しかったです。このおもてなし活動を通じて、めったにできない体験ができてとても良かったです！私は、海外の方に鶴の折り方を教えました。最初はとても不安でどう教えたらよいか分からなかったため、自分なりに精一杯の身振り手振りなどを使って沢山会話をしました。外国人の方はいい笑顔で完成した鶴を喜んでくれて私は楽しかったし、また釧路に来て欲しいと思いました。そこで思ったのが、「もっと勉強をしておけば良かった」「海外の方と沢山ペラペラ会話ができれば良かった」「自分から積極的に話に行けば良かった」など、様々な反省があります。この体験を通じて私は目標を立てました。それは『沢山勉強をして、いろいろな人とコミュニケーションを取る』ということです。次回はもっと頑張って自分から話しかけたりしたいと思います。(H・O)



今回初めてダイヤモンド・プリンセスに乗っている方々におもてなしをしたとき、見た目だけではどこの人かなんて分からなかったし、最初は言葉の通じない相手にどう接して折り紙を渡すかも悩んだし、上手く関わるができなかったけど、段々と自分から声を掛けられるようになり、バスから降りてきた人たちに挨拶をして折り鶴をプレゼントすることができた。鶴をあげた女の子にハグをしてもらったり、写真

を撮る際には肩を抱かれたりと、日本以外の国の距離感やスキンシップを実際に体験することができた。折り鶴に興味を持った人に折り方を教えることになったとき、あまりコミュニケーションを取れたわけではないけれど、ジェスチャーを使ったり簡単な英単語で褒めたりして、関わるすることができた。手を振ったら返してもらったり、その逆もあったり、相手から写真をお願いされたりと、普段の生活ではできない体験ができ、とても楽しかった。次があるならもう少し英語ができるようになりたい。(K・E)

(編集：金井 大地)